

令和7年度 全国学力学習状況調査の結果

4月17日に実施された「全国学力調査」について結果がまとまりました。本調査は、国語と算数と理科の3教科のテスト同時に家庭での過ごし方や学習状況も問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係をふまえて本校の子どもたちの様子をお知らせいたします。

総合結果(国語・算数・理科)

国語・算数については昨年度に引き続き、全国平均、京都府平均を下回る結果となりました。理科(昨年度は実施していません)の評価観点「知識・技能」については全国平均を上回っていましたが、改善すべき点がわかり、今後の指導に生かしていきたいと考えています。



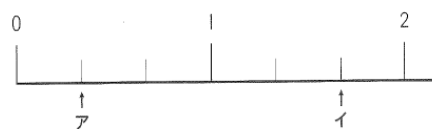
国語

記述式の問いに対する正答率が全国平均を少し上回り、無回答率も少ないことから、最後まで考えて問いに取り組んでいたことがうかがえます。今後は「書く」ことを伸ばしながら、「読む」、「話す・聞く」についても成長を促していきたいと思います。そのためには、「語彙を増やす」「話の内容を読み取る」ために読書活動の推進を進めていきます。また、知り得たことを友達に話したり、意見を聞いたり、相談する。友達の話に耳を傾け、自分の意見を述べたり、話し合ったりする時間を意図的に取り入れることで、子どもたちが主体的に学ぶ授業展開を構築したいと考えています。



算数

全市的に正答率が低かった問いに対して、本校でも正答率が低い傾向にありました。特に以下のような分数に関する分野。例えば、「次の数直線のア、イの目もりがあらわす数を分数で書きましょう」という以下のような問い。

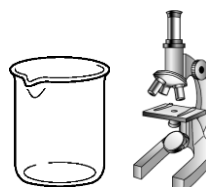


それに加え図形に関する分野、いくつかの条件を複合的にとらえ解決する問題に課題が見られました。今後も基礎的な学習の定着を図り、それを普段の生活と結びつけていく中で、さらなる定着を進めていきたいと考えています。

理科

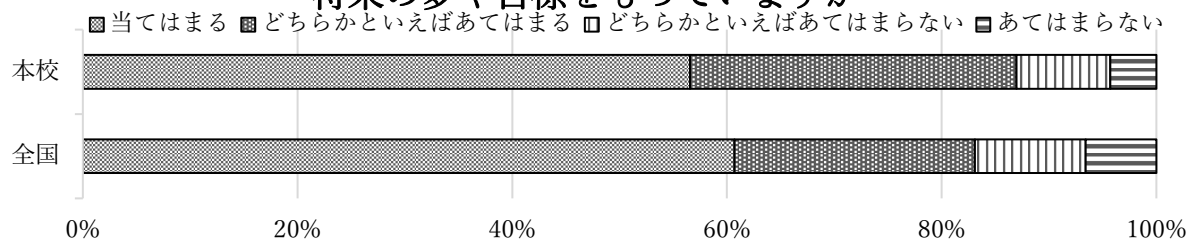
実験道具の利用法や注意点などの知識についてはおおよそ定着していると考えられます。また、基礎的な知識についてもおおよそ定着していることがわかりました。しかし、いくつかの事象を比べたり、条件を揃えたりする複合的な問題について課題が見られました。

理科におけるP (Plan 計画) D (do 実験・実行) C (check 評価) A (act 改善) サイクルを大切にし、体験活動を通して科学的に事象をとらえられるように指導していきたいと考えています。



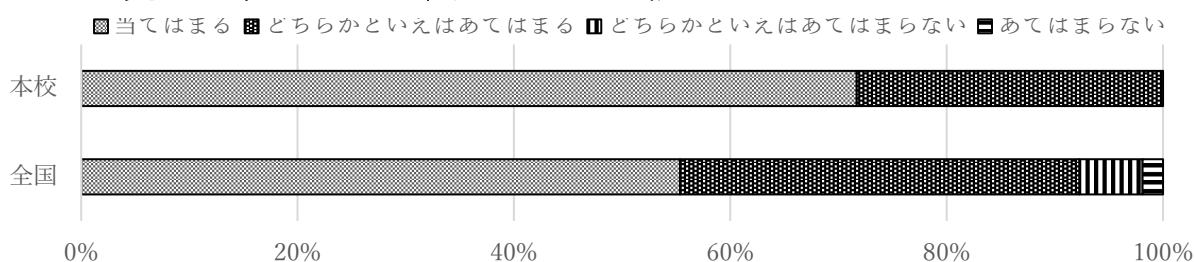
児童質問紙調査から

将来の夢や目標をもっていますか



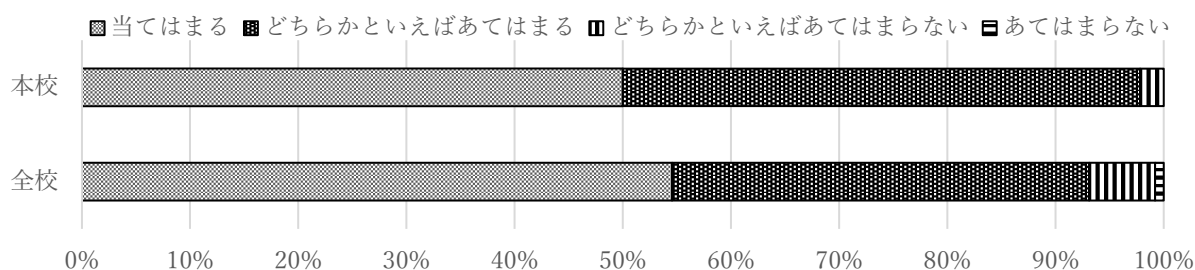
将来の夢や目標をもっているか尋ねられた時、本校では肯定的な意見が全国平均よりも多いことがわかりました。日ごろの学びを通して将来について考え、学びの大切さを理解していることがわかります。

先生は、あなたの良いところを認めてくれると思いますか



「良いところを認める」ということは、子どもたちの自己有用感を高め、「自分が大切にされている」から「友だちを大切にしたい」という思いへと発展させることができます。それは子どもたちの人権感覚を育てるということにもつながります。今後も、自分も友だちも大切に指導を継続していきたいと思います。

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



「みんな幸せ」新林小学校が掲げる大きなスローガンの1つです。多くの子どもたちが1日の中で幸せになる時間があると答えています。この幸せが「今だけ」ではなく、生涯を通した幸せを作っていけるように子どもたちを支えていきたいと考えています。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、学力実態と生活習慣から子どもの可能性を伸ばすために学校でどのような手立てや支援をしていけばよいかを分析、改善していくためのものです。学力は机上の学習だけではなく、望ましい生活習慣や豊かな体験と人のつながりの中で育まれ、生きて働く力として生涯、向上していきます。

本校の結果では、子どもたちが夢をもち、自分が大切にされている環境がご家庭で築かれていることが表れています。これからも子どもたちの健やかな成長と学びの支援にご協力をお願いいたします。